

MIS036-P88

会場: コンベンションホール

時間: 5月27日 14:15-16:15

東北地方太平洋沖地震によって誘起されたと考えられる全磁力毎分値の変動 Anomalous variations of geomagnetic intensity possibly induced by the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake

源 泰拓^{1*}, 山崎伸行¹, 三島稔明¹

Yasuhiro Minamoto^{1*}, Nobuyuki Yamazaki¹, Toshiaki MISHIMA¹

¹ 気象庁地磁気観測所

¹ Kakioka Magnetic Observatory, JMA

東北地方太平洋沖地震によって誘起されたと考えられる全磁力毎分値の変動が、地磁気観測所が展開する観測網で得られた。震央から約700kmの女満別(MMB)を基準とした地点差の変動を見ると、気象庁発表の震央から210kmのいわき(IWK)では、14時39分から15時01分にかけて7.2nT減少し、15時14分にかけて6.4nT増加した。気象庁が発表した発生時刻14時46分ごろであるから、IWKの変化は地震に先行している。一方、震央から約300kmの北浦(KTR)、柿岡(KAK)では14時52分から55分にかけて各々2.9nT、2.2nTの減少が記録され、ともに15時までに元の水準に戻っているが、IWKに見られるような地震の発生に先行する減少は見られない。震央から約450kmの八ヶ岳(YAT)では14時53分から55分にかけて1.1nTの減少が認められた。

キーワード: 東北地方太平洋沖地震, 地磁気, 全磁力

Keywords: 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake, geomagnetic, total intensity